Asada
環境を守る親切ツール

可搬式リフト
水圧 気圧 アッパー28J

取扱説明書

【ご使用前に必ず本書をお読みください。】

IM1506

アッパー

安全にご使用いただくために

このたびは、アッパー28Ｊをお買い上げいただきましてありがとうございます。
●この取扱説明書は、お使いになる方に必ずお渡しください。
●ご使用前に必ず本書を最後までよく読み、確実に理解してください。
●適切な取り扱いで本機の性能を充分発揮させ、安全な作業をしてください。
●本書は、お使いになる方がいつでも取り出せるところに大切に保管してください。
●本機を使用以途用外の目的で使わないでください。
●商品が届きましたら、ただちに次の項目を確認してください。
・ご注文の商品の仕様と違いはないか。
・輸送中の事故などで破損、変形していないか。
・品属付等に不足はないか。
不一万具合が発見された場合は、至急お買い上げの販売店、または当社営業所にお申し付けください。
（本書記載内容は改良のため、予告なしに変更することがあります。）

警告表示の分類

本書及び本機に使用している警告表示は、3つのレベルに分類されます。

⚠ 危険

本機に接触または接近する使用者、第三者等がその扱いを誤ったり、その状況を回避しない場合、死亡または重傷を招く差し迫った危険な状態。

⚠ 警告

本機に接触または接近する使用者、第三者等がその扱いを誤ったり、その状況を回避しない場合、死亡または重傷を招く可能性がある危険な状態。

⚠ 注意

本機に接触または接近する使用者、第三者等がその扱いを誤ったり、その状況を回避しない場合、軽症または中程度の障害を招く可能性がある危険な状態。または、本機に損傷をもたらす状態。

記号

落下

感電

爆発

火災

分解禁止

アース

作業環境

その他

取扱説明書

アッパー

ご使用上注意

⚠ 危険

水　　圧

◆感電し、死亡することがあります。必ずアースをしてください。
◆ぬれた手で電源プラグを電源コンセントに差し込まないでください。
◆雨中やポンプユニット本体に水の入りやすい場所では、使用しないでください。

◆電源プラグ、電源コードや延長コードが破損していたら、すぐに交換してください。
◆電源コードを持って電源から引き抜いたり、コードの上に本機を置いたりしてコードを破損させないでください。
◆延長コードはアース線を備えた3芯キャブタイヤケーブルを使用し、屋外使用の場合は特に気をつけて丈夫なものを使用ください。

⚠ 警告

共　　通

◆上昇・下降の作業時には周囲に人がいないことを確認してから作業してください。特にお子様には十分ご注意ください。

◆強風時など悪天候の場合は、屋外で使用しないでください。リフトが転倒して故障やケガをする恐れがあります。
◆荷物専用ですから荷物の昇降以外には使用しないでください。リフトが転倒して故障やケガをする恐れがあります。

気　　圧

◆リフトは積載荷重及び積載位置が変わると伸縮しますので十分にご注意ください。故障やケガをする恐れがあります。
◆荷物を外したり荷物を落下した場合は、シリンダが急に上がりますのでご注意ください。ケガをする恐れがあります。

⚠ 警告

水　　圧

◆発熱、発煙、発火の原因となるので、電源電圧は100Vでご使用ください。

◆電源プラグ、電源コードや、延長プラグが損傷していたら、すぐに交換してください。

◆本機が発熱や発煙した場合は、むやみに分解せず点検や修理を依頼してください。

◆アース線をガス管に取り付けると爆発の恐れがあります。絶対にしないでください。

◆引火、爆発の恐れがありますのでガソリン、シンナー等の可燃性の液体やガスの近くでは使用しないでください。

◆アッパーは上昇または下降時、シリンダの上昇または下降順により、シリンダが急作動することがあります。
荷物の落下に注意してください。

木製天板

◆天板をご使用される場合は必ず、荷物の荷重中心がアッパーの中心になるように置いてください。

◆荷物の荷重が天板端部にかからないようにしてください。
天板の破損、荷物の落下の原因になります。

◆天板の端部に荷重中心がかかる場合は、荷重が直接アッパーの中心にかかるように改善してください。
天板の破損、荷物の落下の原因になります。

◆雨天時、木製天板には水がかからないようにしてください。
天板が水分により歪み、破損の原因になります。

◆破損した木製天板は使用しないでください。
荷物の落下の原因になります。

◆所定以上の荷重が天板にかからないようにしてください。
天板の破損、荷物の落下の原因になります。

アッパー

⚠ 注意

共　通

◆水平な地面にアッパー本体を設置してください。荷物の落下や転落によりケガをする恐れがあります。

◆最大上昇時のままスイッチの上昇ボタンを押し続けないでください。故障の原因になります。

◆シリンダに傷や強い衝撃を与えないでください。また、シリンダを無理に引っ張らないでください。故障の原因になります。

◆コード及びホースは確実に差し込んでください。故障の原因になります。

◆荷物はアッパー本体の中心に置いてください。荷物の落下や転落によりケガをする恐れがあります。

◆昇降時には車輪を必ずロックしてください。荷物の落下や転落によりケガをする恐れがあります。

水　圧

◆水不足によるエアの吸い込みがないようにご注意ください。荷物の落下や転落によりケガをする恐れがあります。

◆絶対に凍結させないでください。凍結の恐れがある場合は、市販の不凍液を水タンクに混入してご使用ください。故障の原因になります。

◆水タンクの水は定期的に交換してください。（月1回以上）
また、タンク内にゴミが入ったり、水の腐敗がないようにしてください。故障の原因になります。

◆電圧低下させないでください。故障の原因になります。

◆アッパーの水を不凍液に交換したときは、必ず試運転を数回繰り返してください。
アッパーの水を不凍液に交換した時は、シリンダ内に水が残ります。このシリンダ内の水が凍結しシリンダが破損します。
試運転を行い、シリンダ内の水と不凍液を混ぜてください。

⚠ 注意

気　圧

◆炭酸ガスまたはコンプレッサを使用してください。それ以外のガスは絶対に使用しないでください。圧力は0．97MPa以下でご使用ください。
◆ボンベは必ず垂直に立て、ボンベのバルブはゆっくり開いてください。また、業作終了後は必ずボンベのバルブを閉めてください。
◆アッパーをご使用いただく前に２～3回空運転を行なってください。長期間使用しなかったときは必ず実行してください。

目　次

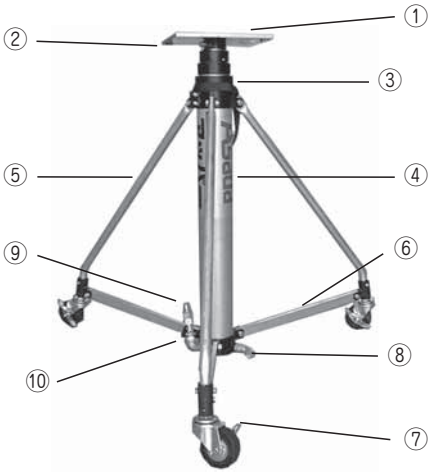
1.製品構成
1）各部の名称…… 8
2）仕様…… 9
3）標準付属品…… 10
2.運転前の準備
1）アッパー本体組立 …… 11
2）駆動装置
2-1）水圧･水圧ポンプユニットP10 …… 12
2-2）気圧･炭酸ガスボンベ …… 13
2-3）気圧･コンプレッサ …… 14
3）操作
3-1）水圧リフト …… 14
3-2）気圧リフト共通 …… 16
3-3）気圧リフト･炭酸ガスボンベ仕様 …… 16
3-4）気圧リフト･コンプレッサ仕様 …… 17
3.修理･サービスを依頼される前に …… 18
4.保守･点検
1）日常点検 …… 19
2）定期点検 …… 19

アッパー

1．製品構成

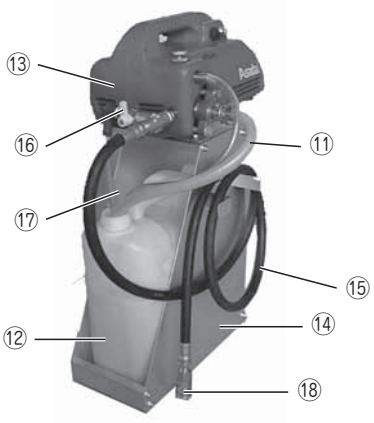
1）各部の名称

アッパー本体（水圧・気圧リフト）



①荷受プレート
②エア抜きバルブ
（水圧アッパーのみ）
③キャップ
④シリンダ
⑤脚A
⑥脚B
⑦キャスター
⑧スライドリング・固定ピン
⑨カプラ（オス）
⑩ボールバルブ

ポンプユニットP10



⑪給水ホース
⑫水タンク10R
⑬ポンプユニットホビー40
⑭P10ケース
⑮P10水圧ホース組
⑯バルブ
⑰リリーフホース
⑱カプラ

2）仕様

コードNo.	品　名	仕　様
UA280	アッパーA-28J	水圧ポンプユニット
UG280	アッパーG-28JS	炭酸ガス
UG283	アッパーG-28JC	気圧コンプレッサ

アッパー本体

形　式		A-28J	G-28JS	G-28JC
高さ	最　高（mm）	2,786		
	最　低（mm）	923		
段　数		4		
最大荷重（kg）		160		120
接地寸法（mm）		904×784		
供給水量（R）		5.4	ー	
キャスター径（mm）		φ75		
質　量（kg）		12		

ポンプユニットP10

形　式	P10
タンク容量（R）	10
モ　ー　タ	100V･200W･50/60Hz
使用温度範囲（℃）	−5〜+40
リリーフ設定圧力	0.98
質　量（kg）	16
寸　法（mm）	L360×W250×H535
適応機種	A-28J

アッパー

3）標準付属品

コードNo.	品　　名	A-28J	G-28JS	G-28JC
UA089	アッパー本体A-28J	○		
UA065	木製天板組32×55	○	○	○
UA045	ポンプユニットP10	○		
UG038	アッパー本体G-28J		○	○
UG004	圧力調整器		○	
UG005	コントロールスイッチ付ホース		○	
UG018	工具袋		○	○
UG021	バルブ付ホース			○
UA139	取扱説明書	○	○	○
FA0504	コンプレッサ0504			○

2．運転前の準備

1）アッパー本体組立

①アッパー本体を立てバンドを緩めてください。

②脚を広げながらスライドリングを下げてください。
（図2）

図1

③スライドリングの固定ピンがベースの穴に固定されるまでシリンダのスライドリングを下まで降ろしてください。

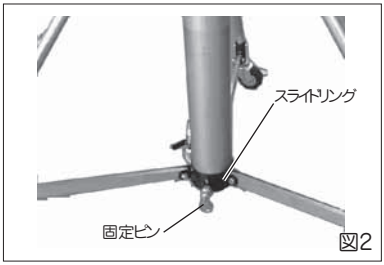


図2

④荷受プレートの上に荷物を載せて使用します。
不安定な場合は、付属の木製天板を使用します。

⑤木製天板を荷受プレートの上に乗せ、天板に皿ボルトを差込み、裏側から蝶ナットで荷受プレートに固定します。

⑥パイプ等、円筒形のものを持ち上げる場合は、別販売品のＹ型金具を使用します。

⑦荷受プレートの両サイドの穴にＹ型金具を差込み、蝶ナットで固定します。（図3）

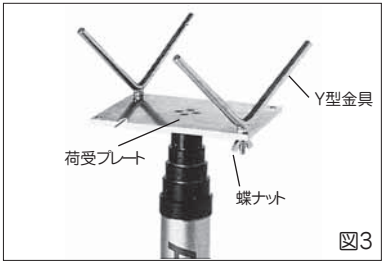


図3

アッパー

2）駆動装置

2-1）水圧・水圧ポンプユニットP10

①注水口をゆるめ、給水ホース、リリーフホースを給水タンクから外してください。

②P10ケースより水タンクを外し、清浄な水または水道水を約10L入れてください。

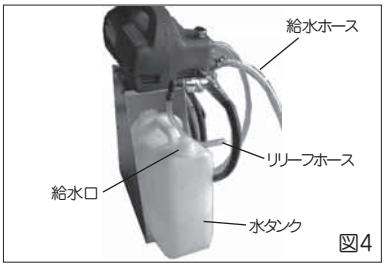


図4

③P10ケースに水タンクを戻し給水ホース、リリーフホースを取付けてください。（図5）

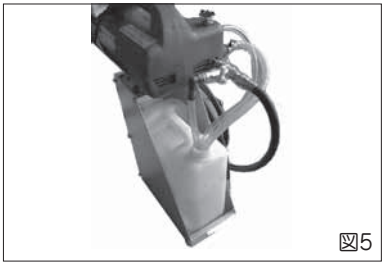


図5

④水圧ホースのカプラ（メス）のスリーブ（外周リング）を手前に引きながらカプラ（オス）を差込みますと、スリーブはバネでカチッと収まります。

⑤ホースを引張って、抜けないか確認してください。（図6）

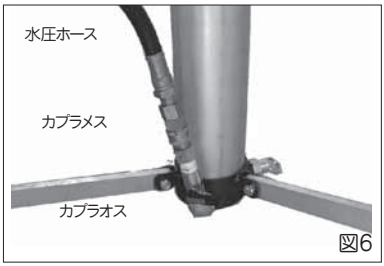


図6

⚠ 注意

◆ポンプユニットホビー40（ホビー40）の使用方法及び注意事項は、高圧洗浄機440の取扱説明書をご参照ください。

2-2）気圧・炭酸ガスボンベ仕様

①平らな面（床）に炭酸ガスボンベを立てます。

②圧力調整器のボンベを取付けてください。ナットをしっかり締め付けてください。（図7）

③コントロールスイッチ付ホースの赤色ホースのカプラを圧力調整器のカプラに取付けます。

図7

④黒色ホースのカプラをアッパー本体のカプラに取付けます。

⑤カプラの取付は、カプラ（メス）のスリーブ（外周リング）を手前に引きながらカプラ（オス）を差込んでください。

⑥取付後、ホースの両側を引張って抜けないか確認してください。

⑦床が平でなく炭酸ガスボンベが不安定な場合は、別販売品のボンベホルダを使用してください。

⑧アッパーの脚に取付けてください。ホルダのベルトでアッパー本体に取付けてください。（図8）

⑨固定後、ボンベホルダに炭酸ガスボンベを差し込んでください。

図8

アッパー

2-3）気圧・コンプレッサ仕様

①バルブ付ホースのバルブ側のカプラ（オス）をコンプレッサのホースのカプラに接続します。（図9）

②他方のカプラ（メス）をアッパー本体のカプラに取付けます。

③カプラの取付は、カプラ（メス）のスリーブ（外周リング）を手前に引きながらカプラ（オス）を差込んでください。

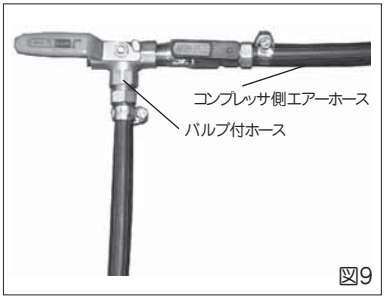


図9

④取付後、ホースの両側を引張って抜けないか確認してください。

3）操作

3-1）水圧リフト

①水平の場所にアッパー本体を設置します。

②電源コードのプラグを電源に差込みます。

③ポンプユニットのリリーフバルブを閉じます。

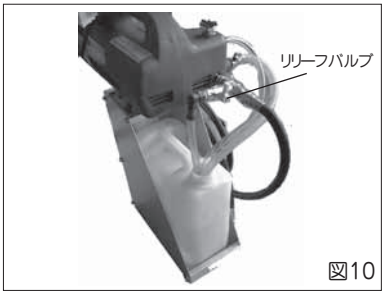


図10

④アッパー上部にあるエア抜きバルブを押してポンプのスイッチを入れます。（図11）

⑤エア抜きバルブから気泡が抜けて水が出るようになったらエア抜きバルブを離してください。

⑥アッパー本体のキャスターを全てロックしてください。荷受けプレートまたは木製天板の上に荷物を載せます。

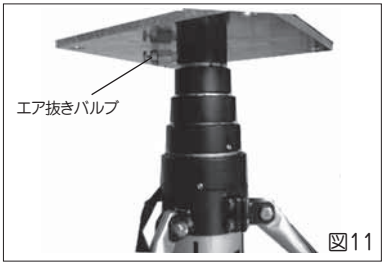


図11

⑦荷重は中心にかかるようセットしてください。円筒形の物を持ち上げるときは特に注意してください。

⑧ポンプのスイッチをON（入れる）にし、ポンプが回転中はシリンダが上昇し、OFFにする（切る）と止まります。

⑨リリーフバルブを開くとシリンダは下降し、閉めると止まります。

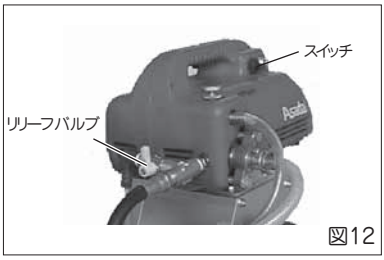


図12

⑩上昇（下降）時に速度調整したり、精密な位置で停止したいときはリリーフバルブのレバーを調整してください。

⑪ポンプユニットのスイッチを切ります。

⑫長時間止めておく場合は、本体のボールバルブを閉じてください。

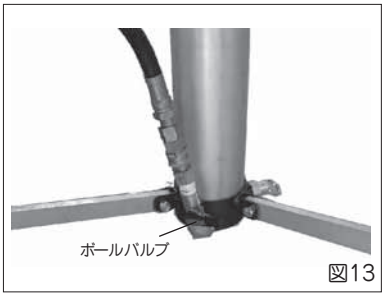


図13

⑭水を排出するときは給水タンクを外して水を捨ててください。
⑮タンク内の水を強制的に排出する場合は別販売品の圧カテスタを水圧ホースのカプラに差込み、ポンプユニットのスイッチを入れてください。

⚠ 注意

◆冬期に水が凍結する恐れがある場合は、タンク内に市販の不凍液を注入してご使用ください。

アッパー

⚠ 注意

故障時の対策

◆自然降下する場合、一時的対策として、水圧ホースのボールバルブを閉じてください。
◆アッパー本体が上昇位置で停電または電源トラブルがあった場合、リリーフバルブを開いて降下させてください。
◆電源が不足してモータが始動しにくい場合は、リリーフバルブを一時的に開き起動させてください。

3-2）気圧リフト共通

①水平の場所にアッパー本体を設置します。
②各部の取付及び接続が完全かどうか確認してください。
③アッパー本体のキャスターを全てロックしてください。荷受けプレートまたは木製天板の上に荷物を載せます。
④荷重は中心にかかるようセットしてください。

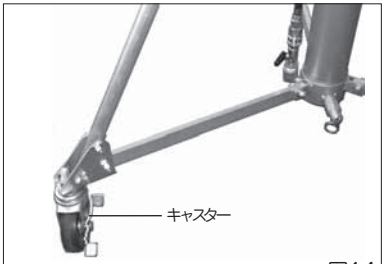


図14

3-3）気圧リフト・炭酸ガスボンベ仕様

①ボンベのバルブをゆっくり開いて下さい。この時、バルブを早く開かないでください。
②コントロールスイッチの上昇ボタンを押しつづけるとシリンダは上昇し、離すと止まります。
③下降ボタンを押しつづけるとシリンダは下降し、離すと止まります。
④上昇時の速度調整をしたいときは上昇ボタンの押し具合で調整できます。また、荷物の希望高さに到着する前に離して、小刻みに上昇ボタンを操作し、高さを調整してください。

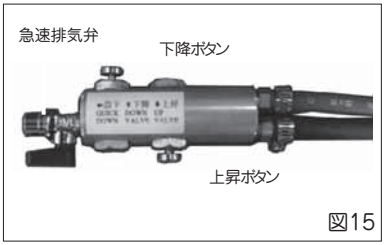


図15

⑤シリンダを降下させる時は、急速排気弁を開けます。荷物を載せて下降させる場合は安全の為急速排気弁を使用しないでください。
⑥作業後ボンベのバルブを閉めてください。

⚠ 警告

◆荷物を載せて下降させる場合は、安全のため急速排気弁を使用しないでください。
◆気圧リフトは、エアの特性を熟知した上で作業を行なってください。
◆上昇または下降ボタンの動きが悪くなった時は、ただちに使用を中止し、点検または修理をしてください。
◆気圧アッパーで荷物を降下する場合は、急激な落下に注意してください。荷物はベルト等で天板に固定してから上昇・下降してください。

3-4）気圧リフト・コンプレッサ仕様

①バルブ付ホースの急速排気バルブを閉じ、ボールバルブを開けます。
②コンプレッサの圧力調整器を0.8Mpaに設定し、スイッチを入れます。
③上昇時の速度調整はボールバルブを操作してご使用ください。
④荷物が所定の高さに上昇したら、ボールバルブを閉めます。
⑤コンプレッサのスイッチを切ります。

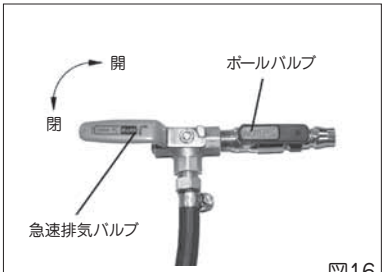


図16

⑥シリンダを降下させる時は、急速排気バルブを開けてください。
⑦荷物を載せて下降する場合は、急速排気バルブを調整しながらご使用ください。

⚠ 注意

◆コンプレッサの使用方法及び注意事項は、コンプレッサの取扱説明書をご参照ください。

アッパー

3．修理・サービスを依頼される前に

水圧リフト

トラブル	原　　因	処　　置
ポンプは回るが上昇しない。	①リリーフバルブが開いている。	①リリーフバルブを閉じる。
	②本体のボールバルブが閉じている。	②本体のボールバルブを開く。
	③水圧ホースのカプラが完全に入っていない。	③カプラを完全に接続する。
	④水の不足。	④必要な水の量を補給する。
	⑤シリンダ内にエアが入っている。	⑤エア抜きをする。
	⑥設定圧力になっていない。 0.98Mpa	⑥圧力設定する。
下降しない。	①本体のボールバルブが閉じている。	①本体のボールバルブを開ける。
	②水圧ホースのカプラが完全に入っていない。	②カプラを完全に接続する。
中間位置で自然下降する。	①リリーフバルブが開いている。	①リリーフバルブを閉じる。
	②シリンダのジョイント部より水が滴れている。	②シリンダ内のパッキンを交換する。（専門工場）

気圧リフト

トラブル	原　　因	処　　置
上昇スイッチを押しても上昇しない。	①ホースの両端のカプラが入っていない。	①カプラを完全に接続する。
	②炭酸ガスの不足。	②新品の炭酸ガスボンベに交換、または充填する。
	③コンプレッサの圧力不足。	③コンプレッサの設定圧力を上げる。
	④急速排気弁が開いている。	④急速排気弁を閉める。
中間位置で自然降下する。	①ホースの両端のカプラが完全に入っていない。	①カプラを完全に接続する。
	②急速排気弁が開いている。	②急速排気弁を閉める。
	③シリンダンのジョイント部よりエアが漏れている。	③シリンダン内のパッキンを交換する。（専門工場）
	④ホースの亀裂。	④ホースを交換する。

4．保守・点検

1）日常点検

原則として以下の項目について１日１回始業時には必ず行ってください。
・シリンダ外面傷の有無、取扱には十分ご注意ください。
・ポンプ、ホース、バルブ等の破損の有無
・漏れのチェック
破損または漏れがあった部品は、ただちに使用を中止し、部品の交換・修理をしてください。

2）定期点検

水圧リフト

1水タンク内の水が腐敗しないように、定期的に水を交換（月1回以上）また月に2回以上試運転をしてポンプ内の水を循環してください。
2長期間アッパーを使用しない時は水タンク内の水を抜いて保管してください。
3凍結させないよう、寒冷地には不凍液をご使用ください。
4寒冷時に使用した不凍液はシーズン終了後、必ず水に換えてください。
5エアが混入してシリンダの動きが悪い時は、必ずエア抜きをしてください。
6ポンプは回るが上昇しない場合で原因が設定圧力（0.98Mpa）不足の時は、別販売品の圧力テスタを使用して圧力を設定してください。

①全てを運転状態にして、水圧ホースとアッパー本体との接続のカプラを外して圧力テスタを水圧ホースに差し込んでください。
②圧力テスタのボールバルブを閉じ、ポンプユニットのスイッチを入れると圧力が指示されます。（図17）

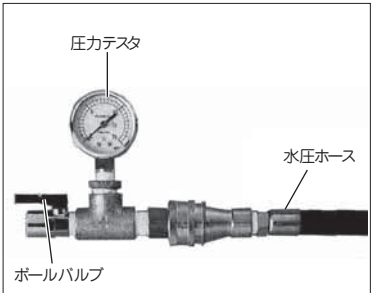


図17

アッパー

③設定圧力になっていない場合はポンプユニットのリリーフ弁ナットを緩めてリリーフ弁ノブを調整してください。

④リリーフ弁ノブは右に回すと高圧、左に回すと低圧になります。

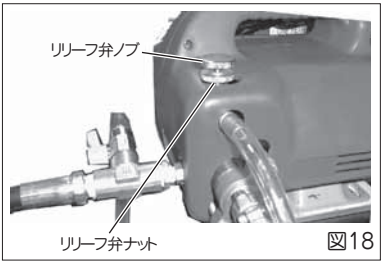


図18

⑤所定に圧力を選定した後、リリーフバルブを開いて圧抜きをします。

⑥数回同じ事を繰り替えして圧力を確認後、ポンプユニットのリリーフ弁ナットを締め付けます。

⑦リリーフ弁ナットを締め付け後、圧力を再度確認してください。

●お客様メモ

後日のために記入しておいてください。
お問合せや部品のご用命の際にお役に立ちます。

製造番号　：
購入年月日：　　年　　月　　日
お買い求めの販売店

Asada アサダ株式会社

本　社／名古屋市北区上飯田西町3-60　TEL(052)911-7165　E-mail:sales@asada.co.jp

支　店／東京・名古屋・大阪
営業所／札幌・仙台・さいたま・横浜
広島・福岡

www.asada.co.jp

海外事業所
アサダ・タイランド社　(バンコク)
台湾浅田股份有限公司　(台北)
アサダ・アーロンコ マシナリー社　(クアラルンプール)
アサダ・ベトナム社　(ホーチミン)
アサダ・インド社　(ムンバイ)
上海浅田進出口有限公司　(上海)
アサダ USA　(オレゴン州・ユージン)

工　場
犬山工場　(愛知県・犬山市)
アサダ第一精工株式会社　(松阪市)
アサダ・マシナリー社　(バンコク)

UA139
MEE